

施設長だより 令和 8 年 8 月号

— 安心と、日々の楽しみを大切に —

■ご挨拶

暑い日が続いておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。日頃より文京千駄木の郷の運営にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

7月28日には熊本県熊本地方を震源とする地震が発生しました。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、不安な日々を過ごされている皆様が、一日も早く穏やかな生活を取り戻されることをお祈り申し上げます。

地震の報に接し、施設長として改めて考えたのは、**「もし今、ここで大きな地震が起きたら、ご利用者の皆様をどのように守るのか」**ということです。

高齢者施設には、ご自身で避難することが難しい方も多くいらっしゃいます。設備や備蓄を整えることはもちろんですが、職員一人ひとりが自分の役割を理解し、いざという時に迷わず動けることが何より大切です。

当施設でも防災訓練を実施していますが、今回の地震を受け、日頃から繰り返し備えることの重要性を改めて感じています。

一方で、施設での暮らしは「安全を守る」ことだけではありません。7月は納涼祭をはじめ、地域の皆様との交流など、ご利用者のたくさんの笑顔を見ることができました。安心して暮らせること、そして、その毎日の中に楽しみや人とのつながりがあること。その両方を大切にしながら、これからも皆様に寄り添った施設づくりを進めてまいります。

■防災訓練を実施しました

— 「もしも」の時に備えて —

文京千駄木の郷では、災害発生時にご利用者の安全を守るため、定期的に防災訓練を行っています。

7月には、夜間の地震発生を想定した図上訓練を実施しました。夜間は日中に比べて職員数が限られるため、より迅速な状況判断と職員同士の連携が求められます。

訓練では、地震発生時の初期対応をはじめ、火災発生時の消防への通報方法、消火器の設置場所や使用方法、避難誘導の流れなどを確認しました。

訓練をしていて感じるのは、頭で理解していることと、実際に動けることは違うということです。

「誰が、どこへ向かうのか」

「ご利用者をどのように安全な場所へ誘導するのか」

「限られた職員でどのように連携するのか」

一つひとつを実際に確認し、課題を次の訓練につなげることが大切だと考えています。

今回の地震を一つのきっかけとして、地震・火災などさまざまな災害を想定しながら、備蓄品や連絡体制、避難方法についても改めて確認してまいります。

「訓練だから」ではなく、「本当に起きた時に動けるために」。

これからも繰り返し訓練を行い、ご利用者の皆様が安心して生活できる施設づくりに取り組んでまいります。



■ 納涼祭を開催しました！

— 笑顔いっぱいの夏の日 —

7月24日、文京千駄木の郷で納涼祭を開催しました。

館内も夏祭りらしい雰囲気となり、ご利用者、ご家族の皆様と一緒に季節を感じる楽しい一日となりました。

なかでも私が楽しみにしていたのが、お神輿です。

私も一緒に神輿を担ぎ、各フロアを練り歩きました。神輿が近づくと、「来た、来た」と笑顔で迎えてくださる方、手を振ってくださる方、ご家族と一緒に楽しんでくださる方など、普段とはまた違った皆様の表情を見ることができました。

ご利用者のすぐ近くで一緒に楽しめたことは、私自身にとっても嬉しい時間となりました。



また、特養・デイサービス合同で「ペットベロ」さんによる落語を観覧しました。会場には笑い声が広がり、世代を問わず一緒に楽しむことのできる素敵な時間となりました。

施設で生活されていても、季節を感じ、笑って、誰かと一緒に楽しむ。

そんな時間をこれからも大切にしていきたいと思います。



地域とのつながり

— 「ふらっと団子坂」アクセサリ作りに参加しました —

地域交流の一環として、文京千駄木の郷1Fのラウンジで毎週開催されている「ふらっと団子坂」さんでアクセサリ作りのイベントが開催され、特養のご利用者が参加しました。

色や形を選びながら、一つひとつのパーツを組み合わせて作品を作っていきます。制作中は皆様とても真剣な表情。それでも完成した作品を手にとると、自然と笑顔がこぼれました。

施設の中だけではなく、地域へ出て、地域の皆様と同じ時間を過ごすことも、ご利用者にとって大切な暮らしの一部です。

文京千駄木の郷は地域の中にある施設です。地域の皆様に施設を知っていただくことはもちろん、ご利用者にも地域の一員としてさまざまな方と交流していただきたいと思います。

これからも「ふらっと団子坂」をはじめとした地域の皆様とのつながりを大切にし、ご利用者が地域と触れ合える機会を少しずつ増やしていきます。



施設長より

施設内をラウンドしていると、ご利用者の皆様から声をかけていただくことがあります。

塗り絵をされている方が、「見て」と完成した作品を見せてくださることもあります。色使いや細かなところまで丁寧に塗られた作品を見ながらお話しする、そんな何気ない時間も私にとって大切な時間です。

納涼祭で神輿を見ながら笑顔で手を振ってくださったこと。地域交流でアクセサリー作りを楽しまれたこと。そして、普段の生活の中で作品を見せてくださったり、声をかけてくださったりすること。

こうした一つひとつが、文京千駄木の郷での「暮らし」なのだと思います。

もちろん、施設として安全を守ることは何より大切です。しかし、それと同じように、毎日の中に楽しみがあり、人とのつながりがあり、「今日は楽しかった」と感じていただけることも大切にしたいと思っています。

これからもできる限り各フロアを回り、皆様の声を聞き、表情を見ながら、ご利用者にとってここが安心して自分らしく暮らせる場所であり続けられるように、職員とともに取り組んでまいります。

■Instagram 更新中！

施設の日常や行事、季節の話題などをInstagramで随時発信しています。

施設長だよりでは紹介しきれない日々の様子も掲載しておりますので、

ぜひご覧ください。



文京千駄木の郷
施設長 石川 正美